



品質の良い大豆の増収を!

◆ 病虫害防除

管内の大豆の多くは水田転換畑で栽培されておりますが、一般に転換畑初年目の圃場は病虫害の発生は少なく、畑地化が進むにつれ病虫害の発生相が変化して多くなる傾向にあります。

また、転換畑初年目の圃場は地下水位が高く排水性・碎土性の不良により根圏の発達が少なく、有機物の急激な分解などにより病原菌への静菌作用が弱く、湿害による立枯病や茎疫病などの発生が多くなるので注意してください。近年の大豆を見ると、虫害が多く見られていますので適期防除を行うようにして下さい。

また、雑草の発生が多くなっている圃場や、収量が下がっている圃場は、水稻作付へ切り替えを検討して下さい。

○ウコンノメイガ

幼虫が葉を巻き込み、その中に生息して葉を食害します。1匹の幼虫が食害しながら別の葉に移って被害が大きくなるため、発生の多い場合(7月25～30日に40～60茎の葉巻数を調査し、茎当たり平均1.3個以上)は早期に防除を行いましょう。

(10a当たり)

薬剤名	倍率	散布量	散布時期
サイアノックス粉剤	-	4kg	7/下～8/上
スミチオン乳剤	1000倍	150～300ℓ	
トレボン乳剤			
カスケード乳剤	4000倍		
プレバソンフロアブル5			



○マメシクイガ

成虫の発生盛期は開花～結実後で、莢の表面に産卵し、ふ化した幼虫が莢内に食入して“クチカケ豆”をつくり、莢のごく若い時期に食害を受けたものは不稔となり、品質・収量が低下します。本県においては、最も被害の多い子実害虫です。

薬剤名	倍率	散布量(10a)	散布時期
サイアノックス粉剤	-	4kg	9/上(1～2回)
トレボン粉剤DL			
スミチオン乳剤	1000倍	150～300ℓ	
トレボン乳剤・EW			
プレバソンフロアブル5	4000倍		
アディオン乳剤			3000倍



○紫斑病

茎・葉・莢・子実を侵し、特に子実に紫色の斑紋をつくり品質を損なう。過繁茂や結実期に多湿(降雨による湿害)の場合に発病が多く、適期防除が必要です。

薬剤名	倍率	散布量(10a)	散布時期
アミスター20フロアブル(無人ヘリ可)	2000倍	150～300ℓ	・1回目:開花後 20～30日 ・2回目:1回目の約10日後
プランダム乳剤25(無人ヘリ可)	3000倍		
Zボルドー粉剤DL	-	3kg	

